CONTENTS

目次・編集方針・グループ概要
トップメッセージ
サステナビリティマネジメント
価値創造
環境
環境マネジメント
気候変動への対応
製品・容器包装の3R
廃棄物等の管理・削減
水資源の保護
有害化学物質の管理・削減
生物多様性の保全
社会
ガバナンス

廃棄物等の管理・削減

環境アクションプラン2025年度実績［概要］ ▶ p.038
環境アクションプラン2026年度目標［概要］ ▶ p.039

基本的な考え方

サーキュラーエコノミーへ移行する中で、企業には廃棄物を減らし、資源の再使用、再利用を行い、環境影響をできるだけ減らすことが求められています。

ニコングループはニコン環境方針の中で循環型経済への対応として、資源効率の最大化と廃棄物の最小化、廃棄物の最終埋立処分量の削減および再資源化、そして製品のライフサイクルにわたる環境配慮を掲げ、製品の製造工程や事業所からの廃棄物削減に取り組んでいます。

Web ▶ ニコン環境方針

戦略

リスク

廃棄物処理場の不足や不法投棄、それに伴う汚染などの問題から、廃棄物に関する法規制は近年ますます強化される傾向にあります。このような状況の中、廃棄物管理に関するコストの増加や万が一、法規制違反となってしまったときの対応費用の発生、社名公表による社会的信用の失墜や投資の引き上げなどをリスクとして認識しています。

機会

廃棄物削減への取り組みによるコスト削減や、資源の効率的な利用により、環境へ配慮した企業としての信頼性を獲得し、市場での競争優位性を確立しやすくなることを機会と認識しています。

戦略

廃棄物総排出量の削減だけでなく、廃棄物を他の産業の資源として活用し、社会全体としての廃棄物の排出をゼロにするという「ゼロエミッション」の考え方を取り入れ、独自のゼロエミッションのレベル別指標を導入し、最終埋立処分量の削減および資源循環の推進に取り組んでいます。

廃棄物の処理については「廃棄物適正処理要領」を策定し、各国の法規制に則り、適切に廃棄物処理委託（適切な委託処理業者の選定と契約を含む）を行っています。「廃棄物適正処理要領」では、廃棄物の排出日・処分終了日（中間処分）・排出種類・排出重量・埋立処分量（リサイクルとならない最終処分量を含む）を月次にて管理を行い、廃棄物の適正処理を確認することを全生産系事業所に義務付けています。各事業所の廃棄物管理は、EMSアセスメントにて評価を行い、課題を洗い出し改善につなげています。また廃棄物処理の所管部署は、当該事業所内の従業員に対し、廃棄物の管理全般の改善を推進するための教育を実施しています。

ニコン環境長期ビジョンとニコン環境中期目標 ▶ p.030

ガバナンス

ニコングループでは、拠点、グループ会社ごとに廃棄物削減目標を立てデータの管理を行っています。そして環境部会傘下の地区環境部会事務局がそれぞれの実績および目標の達成状況を確認しています。

環境推進体制 ▶ p.032

リスク管理

日本国内においては、各拠点、グループ会社にて、廃棄物管理システムを利用し月次で廃棄物データ（排出日、排出種類、排出重量、埋立処分量など）を管理し、法規制に沿って廃棄物が運搬・処理されているか監視を行っています。

海外においては、拠点ごとに廃棄物管理を行い、年1回本部EMSアセスメントにて各国の法規制に沿った対応がされているか確認を行っています。

環境に関するリスク管理 ▶ p.035

CONTENTS

目次・編集方針・グループ概要

トップメッセージ

サステナビリティマネジメント

価値創造

環境

- 環境マネジメント
- 気候変動への対応
- 製品・容器包装の3R
- **廃棄物等の管理・削減**
- 水資源の保護
- 有害化学物質の管理・削減
- 生物多様性の保全

社会

ガバナンス

主な取り組み

ゼロエミッションへの取り組み

ニコングループでは、ゼロエミッション*の定義にレベル別指標を導入しています。

ニコンおよび国内グループ生産会社はすべてレベルSを維持しています。2025年度は、Hikari Glass (Changzhou) Optics Co., Ltd.（中国）、Nikon X-Tek Systems Ltd.（英国）、Nikon SLM Solutions AG（ドイツ）がレベルSを達成しました。また、Nanjing Nikon Jiangnan Optical Instrument Co., Ltd.（中国）がレベル1を達成しているほか、他のグループ生産会社においても2030年度までにレベル1の達成をめざし、さらなる取り組みを進めています。

*ゼロエミッション：国連大学が1994年に提唱。産業活動から排出される廃棄物などを、他の産業の資源として活用し、社会全体として廃棄物ゼロにするという考え方。

ゼロエミッションのレベル別指標

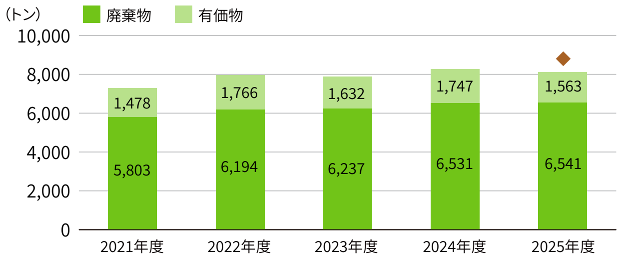
- レベルS：最終（埋立）処分率0.5％未満
- レベル1：最終（埋立）処分率 1％未満
- レベル2：最終（埋立）処分率 5％未満
- レベル3：最終（埋立）処分率 10％未満
- レベル4：最終（埋立）処分率 20％未満

※1 最終（埋立）処分率＝最終（埋立）処分量／（廃棄物＋有価物）。
※2 最終（埋立）処分量とは最終処分場における埋立などによる処分量。

廃棄物削減の実績

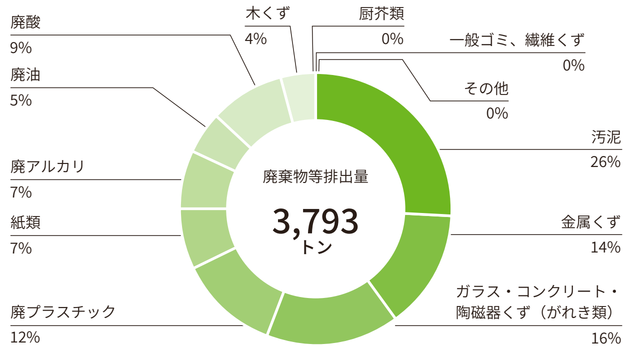
2025年度の国内ニコングループおよび海外グループ生産会社における廃棄物の排出量（有価物は含まない）は6,541トンとなりました。目標である「操業に関わる廃棄物総排出量を2018年度比10％以上削減（廃棄物総排出量：6,993.9トン以下）」に対し、15.8％（1,230トン）削減となり目標を達成しました。また、有価物を含まない再資源化量は6,274トン、最終（埋立）処分量は267トン◆でした。

● 国内ニコングループおよび海外グループ生産会社廃棄物など（廃棄物＋有価物）の排出量推移



◆：データ集において、第三者保証を受けている数値。

● 国内ニコングループ廃棄物など（廃棄物＋有価物）の種類別内訳（2025年度）



生産工程における取り組み

宮城ニコンプレシジョンでは、使用済み軟質系ビニール（気泡緩衝材、ビニール袋）の分別回収および有価物化の取り組みを推進しています。回収にあたっては、部品輸送後に帰社する自社輸送車の空きスペースを有効活用することで、効率的な回収体制を構築しています。2025年度には圧縮梱包機を導入しました。現在、本取り組みにより使用済み軟質系ビニールの45％以上を有価物として再資源化しており、焼却廃棄物の削減に貢献しています。

光学ガラスの研磨に使用される研磨材は、使用後、研磨汚泥として廃棄されます。研磨汚泥は国内ニコングループから排出される廃棄物の約15％を占めます。ニコングループは、この研磨材の再利用方法を確立し、フォトマスク基板の生産を行うニコン湘南分室では、従来比で研磨汚泥廃棄物が約45％削減できました。現在さらなる削減に取り組んでいます。

仙台ニコンでは、再資源化を推進しています。廃プラスチックでは、素材、色による分別、成形品のゲート部品の破砕、発泡スチロールの加熱による減容などを実施。金属くずでは、切り粉に付着した油分の遠心分離などの施策により、有価物としての価値を高めています。

紙資源に関する取り組み

ニコングループでは、会議資料の電子化やパソコンやタブレットによる図面データ、帳票類の確認の推奨など、書類のプリントアウト削減に取り組んでいます。また、複合機の設定変更やソフト導入を行い、ミスコピーや不要コピーを削減するといった紙の使用量削減に取り組んでいます。